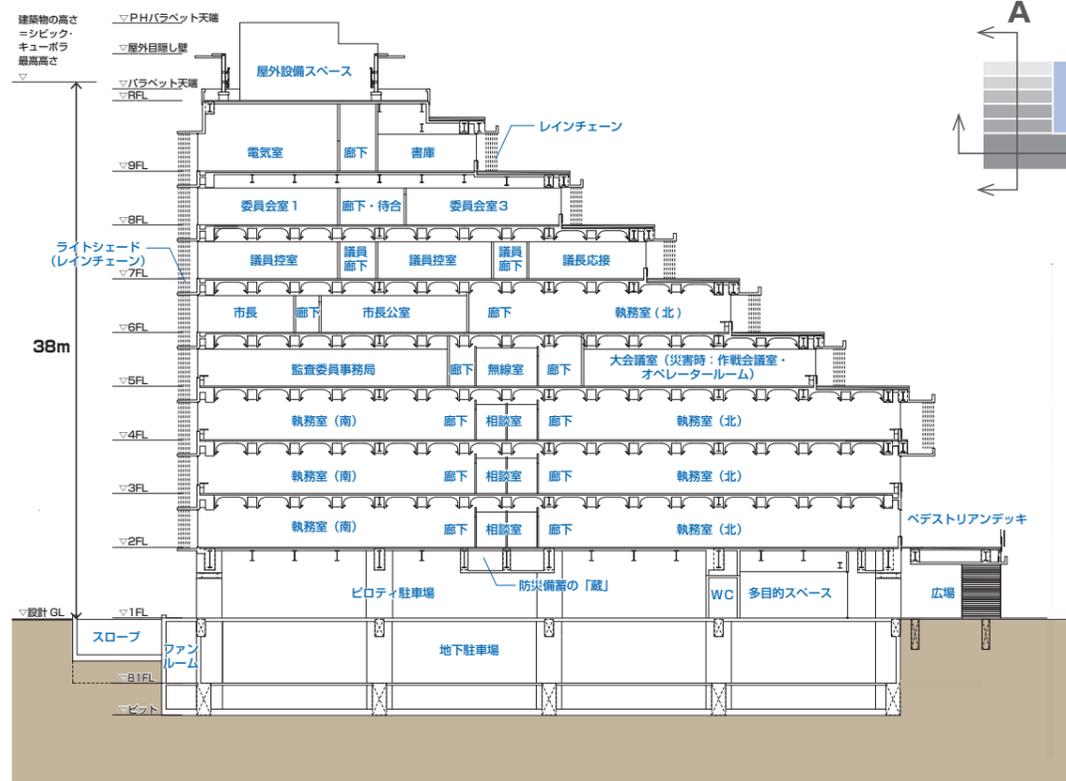
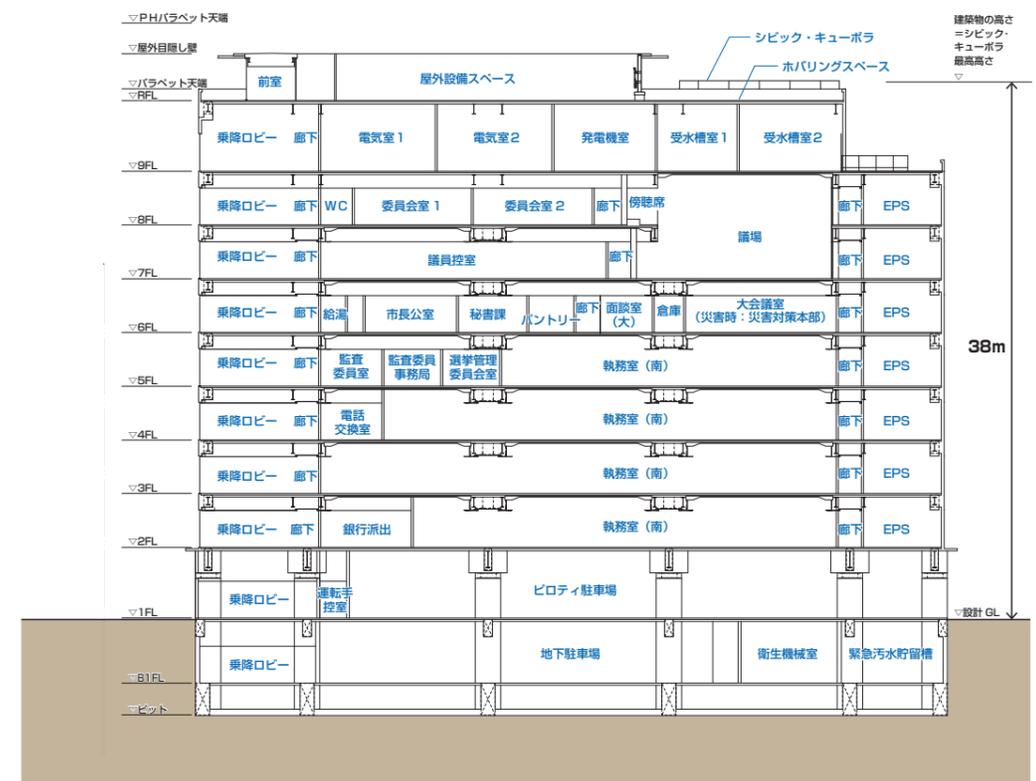


2-3. 断面計画



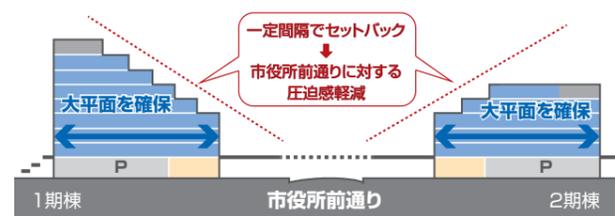
A断面図 (1期棟)



B断面図 (1期棟)

高機能とローコストを両立する「ひな壇庁舎」

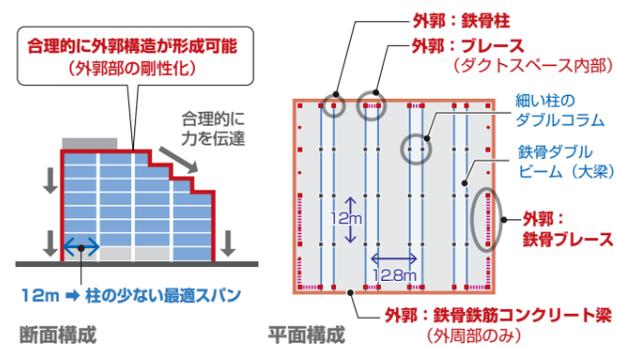
・ひな壇形状の断面計画：市役所前通りへの圧迫感を軽減しながら、部署レイアウトの自由度が高い「整形大平面」を確保するため、ひな壇形状の断面計画を採用します。



◇ひな壇形状の断面計画

・「ダブルビーム架構&天井レス」による階高縮小：大梁は鉄骨ダブルビーム、小梁はPC床版による天井無しの計画とし、階高を3.8mまで圧縮しながら、天井高を最大3.5m確保します。  
(※詳細については、2-5. オフィス計画を参照ください。)

・「外郭構造」により最適スパンを実現：一定間隔でセットバックするひな壇型の建物形状では、合理的に「外郭構造 (外郭部の剛性化)」を形成できます。これにより、中央部の柱の少ない、開放的なオフィス空間をつくることができます。  
(※詳細については、3章 構造計画を参照ください。)



◇外郭部の剛性を高め、開放的なオフィス空間を実現

合理的な階層構成

- ・暫定利用時の部署の集中配置を見据える【1期】：議会機能を7階・8階に配置し、執務機能を2階～5階の4層に集約することで、職員密度の高い暫定利用時の部署レイアウトの自由度を高め、将来的な組織変更にも柔軟に対応します。
- ・市長フロアの災害時連携【1期】：各フロアとの災害時連携を高めるため、市長フロアは建物の中間階(6階)に配置します。
- ・基幹設備の上階配置：水害時の水損リスクに配慮し、基幹設備を最上階に設置します。

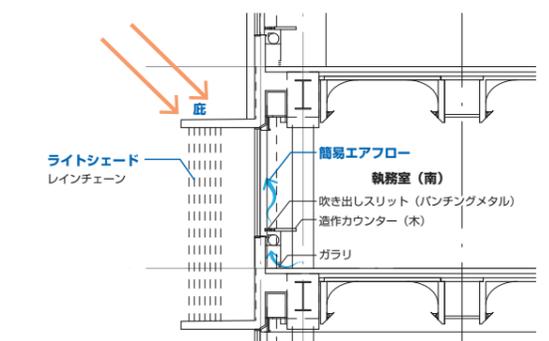


◇合理的な階層構成

- ・1階柱頭免震構造の採用：基礎免震構造に比べて地中の掘削深さを低減するとともに、それに伴う掘削土の搬出や処分に係る費用を縮減します。

環境負荷低減

- ・水平庇とライトシェードによる光のコントロール：日射負荷の大きな南面は「水平庇」と「ライトシェード (日よけ)」を組み合わせることにより、効果的に日射負荷を低減します。
  - ・開口面積の適正化+簡易エアフロー※1による断熱性向上：窓際カウンター、腰壁により、開口面積を適正化します。さらに、ブラインドと組み合わせた簡易エアフローを形成し、執務室内の空調効率を高めます。
- ※1：窓際下部に設置したファンから室内空気をガラス面に沿って吹き出し、ブラインドとガラスの間の日射熱を天井部分で吸い込むことで、窓際の温熱環境を向上させる効果があります。

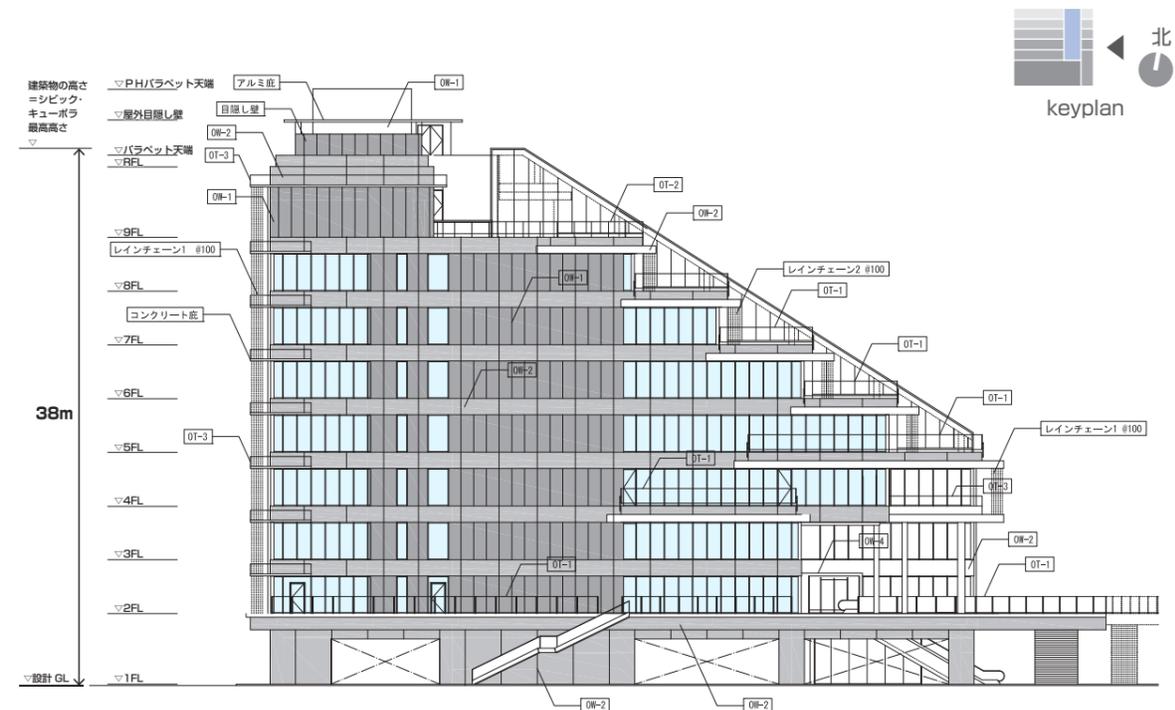


◇南面 窓際の日射負荷低減

2-4. 立面計画 1



◇ 2期棟からみる1期棟の外観イメージ:市役所前通りに対してセットバックするひな壇庁舎。ペDESTリアンデッキが、新庁舎の周囲をぐるりと囲む。



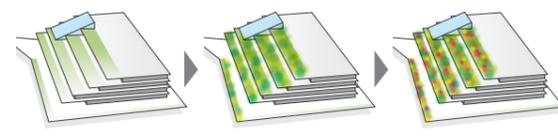
東面立面図 (1期棟)

符号	仕上・仕様
P-1	笠木 アルミ押出型材 B-1種 (避雷導体仕様) w500
OW-1	壁仕上 押出成形セメント板 t60 FU-2 (現場塗装)
OW-2	壁仕上 コンクリート化粧打放し (A種) の上、DP-FU (クリア)
OW-3	壁仕上 リフ付押出成形セメント板 t60 FU-2 (現場塗装)
OW-4	壁仕上 アルミパネル (黒) t2.5 アスロック下地

符号	仕上・仕様
OW-5	壁仕上 木材 (板貼り)
OT-1	手摺 ガラス手摺 (ガラス:H1500、上枠:FB-12×50 HL、支柱:St-FB-12×50 ダブル #1200、手摺SUS 38Φ 1.5 HL)
OT-2	手摺 スチール製手摺 (上枠:St-FB-12×50 HL、支柱:St-FB-9×50 #900、手摺子:St-FB-9×50 #100、溶融亜鉛メッキ)
OT-3	手摺 スチール製手摺 (上枠:StΦ34×3.2、支柱:StΦ21.7×2.8 #900、溶融亜鉛メッキ)
OT-2	手摺 管理用丸管 #3000

「植木のまち」を象徴する庁舎

- ・みどりの丘のような庁舎：緑あふれるひな壇テラスや外構植栽により、「植木のまち」川口を象徴する都市景観をつくります。
- ・ひな壇テラスの緑化づくり：ひな壇テラスの緑は建物竣工時が完成段階ではなく、竣工後も、まちの発展とともに育ち続ける緑ゆたかな庁舎となるよう整備します。
- ・樹形を見下ろす光景：ペDESTリアンデッキの周囲や、吹抜部分等に高木を設けます。地上5.0mに位置するペDESTリアンデッキに上がると、日常生活ではあまり出会うことの少ない「樹形を見下ろす関係」となり、視野いっぱいに緑が広がります。



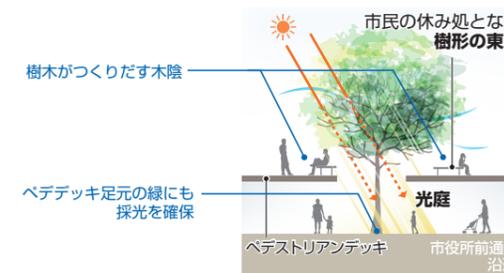
竣工 まちの発展とともに育ち続ける「ひな壇テラス」の緑

◇まちの発展とともに育ち続ける「ひな壇テラス」



◇樹形を見下ろす光景のイメージ

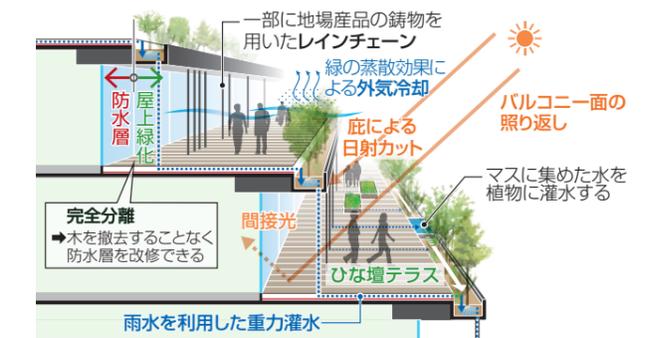
- ・四季を感じる植栽レイアウト：安行の里山のような風景づくりをテーマに、色とりどりの植栽を配置します。(春：花が目立つもの、夏：緑の多いもの、秋：実りがあるもの・紅葉するもの、冬：カンツバキなどを中心に樹種選定)
- ・光庭のある沿道・樹形の東屋：ペDESTリアンデッキに吹抜を設け、沿道に光庭を設けます。また、樹木がデッキ上につくる木陰を利用し、市民の休み処となる「樹形の東屋」をつくります。



◇光庭と樹形の東屋のイメージ

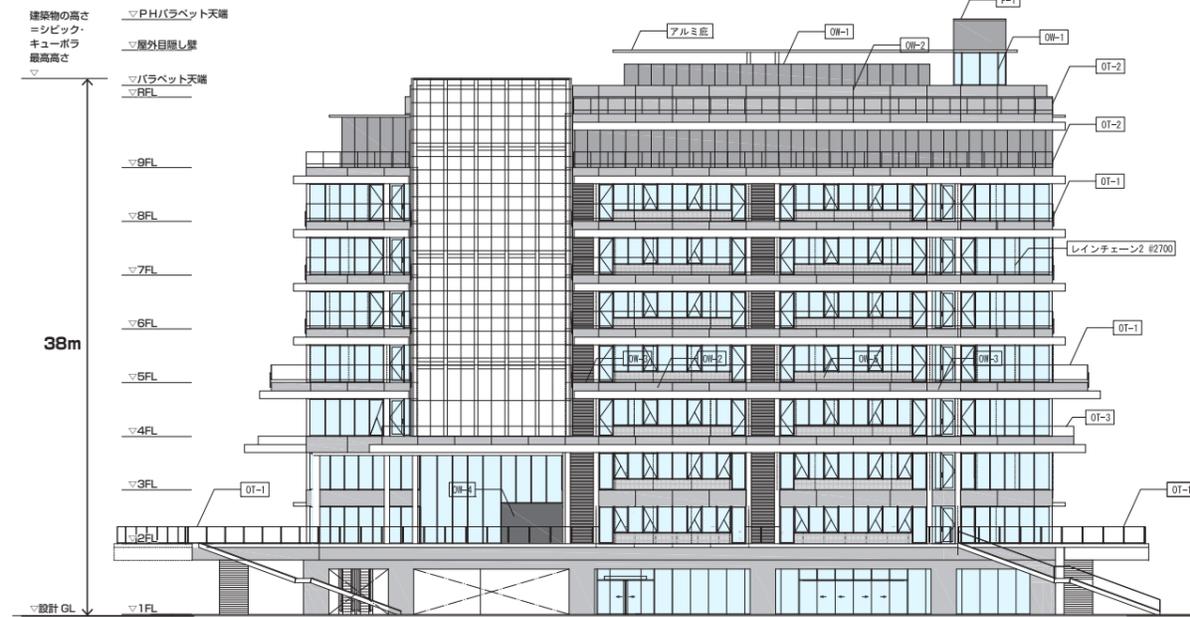
ひな壇形状を活かした自然エネルギー利用

- ・雨水を利用した重力灌水：鋳物のレインチェーンを用い、ひな壇テラスに沿ったフロア間の水みちをつくることで、雨水を利用した重力灌水を促進します。
- ・自然エネルギー利用：緑の蒸散効果による外気冷却、庇による日射カット、バルコニー面の照り返しを利用した間接光の導入などを行います。

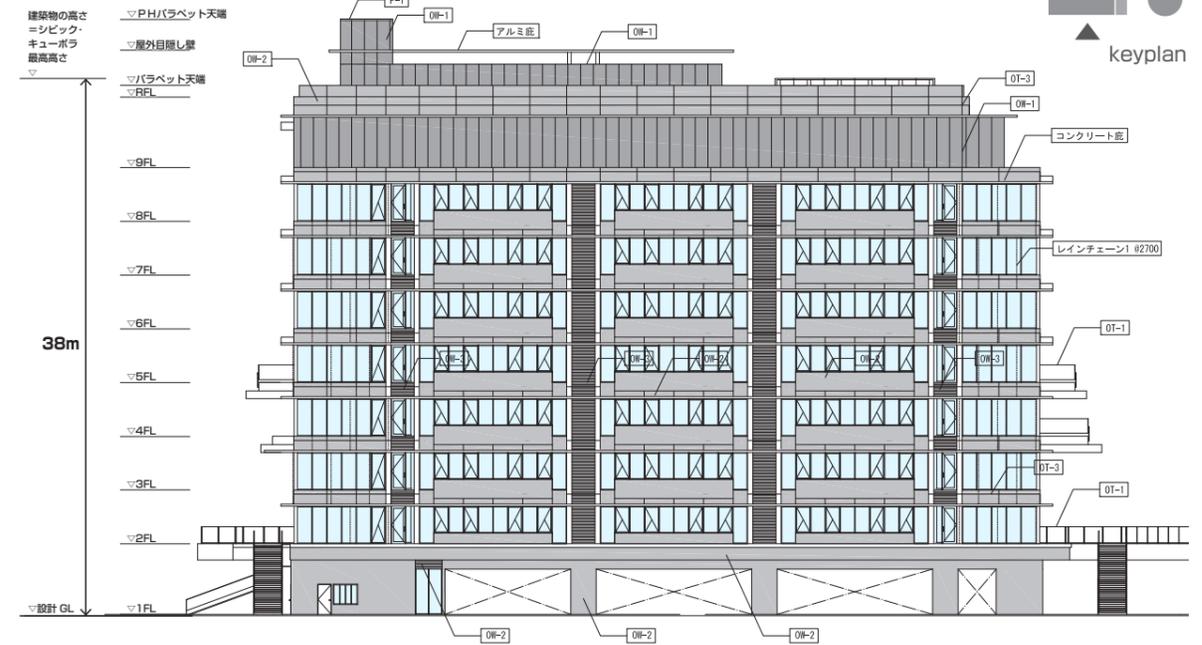


◇森のシステムを取り入れた「ひな壇テラス」

2-4. 立面計画2



北面立面図（1期棟）



南面立面図（1期棟）



符号	仕上・仕様
P-1	笠木 アルミ押出型材 B-1種（避雷導体仕様）w500
OW-1	壁仕上 押出成形セメント板 t60 FU-2（現場塗装）
OW-2	壁仕上 コンクリート化粧打放し（A種）の上、DP-FU（クリア）
OW-3	壁仕上 リブ付押出成形セメント板 t60 FU-2（現場塗装）
OW-4	壁仕上 アルミパネル（黒）t2.5 アスロック下地

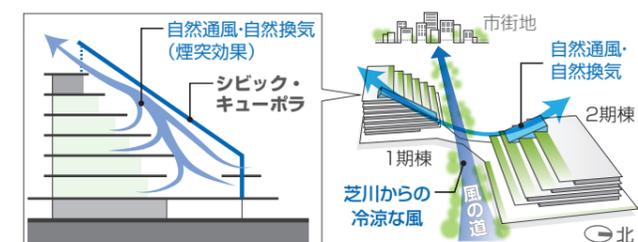
符号	仕上・仕様
OW-5	壁仕上 木材（板貼り）
OT-1	手摺 ガラス手摺（ガラス：H1500、上枠：FB-12×50 HL、支柱：St-FB-12×50 ダブル @1200、手摺SUS 38Φ 1.5 HL）
OT-2	手摺 スチール製手摺（上枠：St-FB-12×50 HL、支柱：St-FB-9×50 @900、手摺子：St-FB-9×50 @100、溶融亜鉛メッキ）
OT-3	手摺 スチール製手摺（上枠：StΦ34×3.2、支柱：StΦ21.7×2.8 @900、溶融亜鉛メッキ）
OT-2	手摺 管理用丸管 Φ3000

環境負荷低減・自然エネルギー利用

- ・「水平庇」「ライトシェード」による光のコントロール：日射負荷の大きな南面は「水平庇」とレインチェーンを用いた「ライトシェード（日よけ）」を組み合わせ、効果的に日射負荷を低減します。
- ・ 鋳物を用いたレインチェーン：レインチェーンには、川口の文化である鋳物を部分的に組み合わせ、外装に「川口らしさ」を取り入れます。
- ・ 煙突効果で風を流す「シビック・キューポラ」：煙突効果を利用し、中間期の自然通風・自然換気を促進します。冬期は頂部熱だまりスペース（9階以上）の暖気を、全熱交換器付の外調機で熱回収します。より効率的に熱交換を行うことで、外気負荷低減を図ります。



◇「水平庇」「ライトシェード」のイメージ



◇煙突効果で効果的に風を取り入れる「シビック・キューポラ」

周辺環境への配慮

- ・ 住宅地との「見合いの視線」を抑制：ひな壇テラスと緑化（北面）、深い庇とライトシェード（南面）により、周辺住宅地との「見合いの視線」を抑制します。
- ・ 市役所前通りへの圧迫感を軽減：一定間隔でセットバックする「ひな壇形状」を採用し、市役所前通りへの圧迫感を軽減します。
- ・ 落ち着いた色彩計画：外装は極力素材色を活かし、植栽の緑が引き立つよう落ち着いた色彩計画とします。



◇市役所前通りからみる1期棟外観イメージ